

【平成28年度 第1回港区史編さん委員会 会議録 要旨】

平成28年10月20日（木）

午後6時30分～7時25分

区役所4階 庁議室

【委員】

出席者：井奥成彦委員長 田中秀司副委員長 岩淵令治委員 唐木富士子委員 小林元子委員
小林靖彦委員 都倉武之委員 野尻三重子委員 渡邊仁久委員 小柳津明委員
青木康平委員 堀二三雄委員 浦田幹男委員 渡邊正信委員

欠席者：なし

【区 長】 武井雅昭区長

【事務局】 総務部総務課

【傍聴者】 なし

次 第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 区長挨拶
- 4 委員自己紹介
- 5 委員長互選
- 6 副委員長指名
- 7 議題 (1) 港区史編さん基本方針（案）について
(2) 港区史編さんスケジュール（案）について
(3) 新たに発行する予定の刊行物（案）について
- 8 閉会

配布資料

- 資料1 港区史編さん委員会 委員名簿
- 資料2 港区史編さん委員会設置要綱
- 資料3 港区史編さん基本方針（案）
(参考) 港区史編さんの基本的考え方について
- 資料4 港区史編さんスケジュール（案）
- 資料5 港区史編さん委員会議題（案）
- 資料6 新たに発行する予定の刊行物（案）

議事要旨

1 開会

2 委嘱状交付

武井雅昭区長から各委員に委嘱状を交付

3 区長挨拶

(省略)

4 委員自己紹介

(省略)

5 委員長互選

委員の互選により、委員長は井奥成彦委員に決定

6 副委員長指名

委員長の指名により 副委員長は田中秀司委員に決定

7 議題

(1) 港区史編さん基本方針（案）について

委員：「（参考）港区史編さんの基本的考え方について」に記載されている「昭和52年以降の港区歩んできた歴史を検証・加筆し、区の行政史も整理します」の検証加筆のイメージとはどのようなものか。

事務局：昭和52年以降の部分について、加筆するというイメージである。

委員：「資料3 港区史編さん基本方針（案）」の(2)や(6)をちょっと読んだ限りだと、「新修港区史」の足りない部分を補うというイメージに読めるが、いかがなものか。1980年代以降歴史の研究は圧倒的に進んでいるので、加筆とかのレベルではなく新たに書き直すという認識で取り組むべきではないか。

事務局：「新修港区史」を刊行した昭和52年以降に歴史的な発掘や色々な研究が進んでいるので、書き換わるという認識である。

委員：「港区史編さん基本方針」には新しいものをつくるということをしっかりと明記した方がよい。

委員長：「港区史編さん基本方針」については、ご意見を踏まえ反映させる形で、私と事務局で調整・修正し決定する。決定した基本方針は、委員の皆さんにメール又は郵送で送付する。

(2) 港区史編さんスケジュール（案）について

委員：中間報告イベントというのはどんなイメージか。

事務局：途中経過の報告を行うもの。詳細については未定。

委員：編さん体制だが、実際の自治体史編さんの編集作業を行う場合、様々な文言や歴史用語の統一であるとか、かなり専門的な能力が必要であり、大学院の日本史専攻の博士課程修了程度の方が必要になると思うが、事務局、支援事業者の役割分担はどうなるのか。

事務局：編集体制についてはまだ、未定のところもあるため、今後、事務局、支援事業者、編さん委員会、専門家等の役割分担を整理する。

委員：行政文書である長期保存文書の目録化はスケジュール上どうなっているのか。

事務局：現在行っており、区史の中の行政史の部分の執筆に使用する。場合により、本編に関わる重要な資料も出てくる可能性があるため、その際は本編にも活かしていく。

(3) 新たに発行する予定の刊行物（案）について

委員：刊行本の当初印刷部数が50部となっているが、少なすぎないか。

委員長：今後、検討していく。

委員：港区は、区史編さんで資料編を出していない。港区は東京都内でもたいへん歴史資料が豊富なところ。区史の典拠として資料編は最低でも2冊は必要である。執筆のタイトなスケジュールから見ると、本編と資料編をあわせて出すスケジュールは厳しいと思われるので、本編を出した後でも資料編を出せないか。

事務局：資料6に記載の刊行物は、あくまでも予定である。ご意見を聞きながら、今後も検討を行っていく。

委員長：「新たに発行する予定の刊行物」については、ご意見を踏まえ検討させていただく。

(4) その他

事務局：第2回港区史編さん委員会は、1月の開催予定。後日、日程調整する。

8 閉会